

Exhibit 30

227

大連會議ニ於イテ極東共和國代表者ニ對シ日本國  
代表者ヨリ提出サレタ原案

千九百二十二年（昭和十一年）四月

- 第一條 極東共和國政府ハ海監須德ヲ外國管理ノ許ニ  
單ニ商業港トナシ尙ホ同政府ハ貿易ヲ防クル  
ガ如キ如何ナル手段ヲモ講シナイコト
- 第二條 兩契約國政府ハ本條約署名ノ後自發的ニ日露  
漁業條約ヲ訂正シ日本ノ漁業會社ノ權益ヲ擴  
張シ且日本人ニ對シ露領沿岸ニ於テ沿海貿易  
ヲモツト廣範圍ニ亘リ爲シ得ル權利ヲ與ヘル  
コト
- 第三條 兩契約國政府ハ本條約署名ノ後直ニ郵便及電  
信、通信ニ關シ妥協點ヲ見出スベク自發的ニ  
努力スルコト
- 第四條 兩契約國政府ハ商業、通信及航海ノ自由ヲ承  
認シ且ソレ等各國人民及船舶ニ第三國ノ人民  
ニ比シ何等劣ラザル待遇ヲ與ヘルコト。本問  
題ニ付イテノ詳細ハ後日商業及ビ海洋航海ニ  
關スル特別條約ニ於テ規定サレル。
- 第五條 兩契約國政府ハ本條約署名後第四條ニ規定セ  
ル主旨ニ基キ自發的ニ稅關規則及關稅ニ關ス  
ル協定ヲ締結スルコト。
- 第六條 各契約國市民ニシテ他ノ締約國ニ居住セル場

第七條

合ハ個人ノ身體ノ安全保護、及ビ財産擁護ノ權利ヲ享有シ其ノ國ノ市民又ハ第三國ノ市民ニ比シ劣等ナ待遇ヲ受クベキモノデナイ。各契約國ノ市民ハ對手國ノ領土ニ於テ商業、工業、製造業、貿易ヲ營ミ其ノ他ノ職業ニ從事スルコトヲ許可シ、又商工業ニ於テ對手國或ヒハ第三國ノ市民ニ比シ何等劣ラザル待遇ヲ受ケルモノデアル。貿易及ビ職業ニ關シテハ兩契約國ノ市民ハ第三國ノ市民ト同等トスルモノデアル。

第八條

各契約國ノ市民ハ對手國ノ領土ニ入り、兩國ノ法律ニ遵ヒ其ノ國ニ自由ニ旅行シ、住居スル權利ヲ享有スルモノデアツテ入國ト同時ニ旅行券ヲ提出スルベキデアル。

第九條

各契約國ハ對手國ニ向ツテ自發的ニ敵對行爲ヲ敢ヘテ稱ラザルコト而シテ同様ニ對手國ニ對シ危險ニナル様ナ如何ナル宣傳ニモ參與セズ又對手國ニ對シテ敵對行爲ヲ遂行センガ爲メ努力セル如何ナル結社ト雖モ其ノ國ニ入國シ居住シ及ビ活動スルコトヲ禁止スル手段ヲ構ズルコト。上記ノ場合ニ於ケル犯人ヲ對手國ヘ引渡ス規則ハ特別ノ協定文中ニ規定スルコト。

第十條

極東共和國政府ハ日本政府ニ對シ其ノ領土内ニ共產主義政權ヲ取り入レヌコト。又ハ私有財産主義ヲ單ニ日本市民ノ爲ノミナラズ自國ノ市民ノ爲ニモ保持スル事ヲ誓約スルコト

第十一條

門戶開放主義ヲ承認シ極東共和國政府ハ日本國民ニ對シ鐵業、農業、森林業及ビ一般的天產物生産業ニ關シ其ノ領土内ニ存在セル總テノ制限ヲ廢棄シ、今後決シテ斯ル制限ヲ設ケザルコト。尙同政府ハ日本國民ニ自國々民ト同様ナ待遇ヲナシ以テ商業及ビ貿易ノ完全ナル自由ヲ與フルベキデアル。極東共和國政府ハ日本國民ニ對シ土地所有權及ビ日本國旗ノ許ニ沿海貿易ニ從事スル完全ナル自由ヲ自發的ニ與ヘルコト。

極東共和國政府ハ日本國民ニ日本國旗ヲ翻ヘシテ自由ニ黑龍江ヲ航行スル權利ヲ與ヘルコト且日本國民ヲシテ日本國旗ヲ翻ヘシ松花江ヲ自由ニ航行スル權利ヲ與ヘルコトヲ希望スル趣旨ヲ支那政府ニ提出スル事ニ同意スル。本條項ハ日本國民ニ限り適用セラレ、本條項ニ依リ發生セル權利ハ他ノ外國人ニ與ヘラレナイモノトスル。

第十二條

兩契約國ハ互ニ對手國ノ領土内ニ公使ノ權

限ラ有セル代表者ヲ派遣シ且領事商務官ノ住宅ヲ設ケルモノトスル

第十三條 兩契約國政府ハ日本政府ト前露西亞政府トノ間ニ締結サレタ他テノ條約及ビ協約ヲ承認シ同時ニ兩契約國ハ此條約ニ署名スル以前兩國ノ市民ニヨリ取得サレタル凡ユル權利ヲ其ノ繼承認スルコト

第十四條 極東共和國政府ハ滿洲方面沿岸並ビニ朝鮮國境ニ於ケル凡ユル城壁及ビ要塞ヲ撤廢シ必要ニ應ジテハ之ヲ爆破シ將來之ヲ築造シナイ事尙朝鮮及ビ滿洲ニ接近セル地域ニ於テハ如何ナル軍事的行動モ爲ササルコトヲ誓約スルコト。

極東共和國政府ハ日本ノ官吏、特別軍事使節及ビ個人トシテ日本陸軍士官ガ其ノ全領土ニ亘リ滞在シ又ハ旅行スル權利ヲ承認スルモノトスル。

極東共和國政府ハ大平洋上ニ決シテ海軍ヲ維持セザルコト及ビ現存セルモノハ破壞スルコト

第十五條 極東共和國政府ハ「ニコリスク」問題ノ解決ニ當リ日本政府ニ樺太ノ北半ヲ「ニコリスク」事變ニ際シ日本市民ニ蒙ラセシ損害ニ對

スル倍贖トシテ向フ八十年間租借ヲ與フルコ  
トヲ誓約スルコト。

第十六條 本條約ハ兩契約國政府ニヨリ批准セラレタ  
時ヨリ效力ヲ發生シ將來此兩契約ノ締結ニ  
至ル迄有效ナルモノトスルコト。

第十七條 本條約ハ露西亞語及ビ日本語ニ於テ起草スレ  
兩原文共正式ナモノトスルコト。

### 秘密條項

第一條 日本ト第三國トノ間ニ戰爭ガ勃發セル場合、  
極東共和國政府ハ嚴正中立ヲ遵守スルコト

第二條 日本政府ハ其ノ軍隊ヲ「プリアモリエ」地方ヨ  
リ自己ノ意志ニヨリ何時デモ必要ト思考スル  
場合撤兵スルコト

第三條 樺太地區ヨリノ撤兵ハ樺太島北半分ノ租借ガ  
本條約第十五條ニ基キ實現セル後ニ履行サレ  
ルベキモノトスルコト  
千九百十八年―千九百二十二年ニ於ケル日本  
ノ干涉（書類上ノ）中央記録局千九百三十四  
年（一二六、一二七、及ビ一二八頁）

### 右記書類ノ翻譯證明書

私、エムギルデンプラット、ハ茲ニ自分ハ露  
西亞語及ビ英語ニ精通セルコトヲ証言ス而シ  
テ右記ノモノハ指示サレタル書類ノ正確且ツ  
眞實ナル翻譯ナリ

エムギルデンプラット